



《特集》戦争の悲惨さ、平和と命の尊さを伝える

令和  
4年度

# 牛久市中学生平和使節団

戦争経験のない子どもたちが「平和大使」として被爆地を訪れ、現地で行われる平和学習に参加する牛久市平和使節派遣事業。市内中学校の代表生徒18人(2年生)が、市内在住の戦争体験者に話を聞くとともに、7月27日から29日にかけて広島を訪問しました。広島では、平和記念公園やさまざまな資料館の見学、被爆者による被爆体験講話等を通して戦争の悲惨さや平和と命の尊さなどについてそれぞれ考えを深めました。生徒たちが「見て・聴いて・感じたこと」の一部をここで紹介します。



▲本川小学校平和資料館にて、原爆投下当日の広島市街地の模型に見入る生徒たち。

牛久第三  
中学校 安孫子 莉穂さん

私は、広島に行って戦争の苦しさについて学びました。自分が思っている以上に戦争はつらいもので、たくさんの方が命を落とし、今がどれだけ平和なのか広島学習を通して知ることができました。これからは、自分に出来る事をもっと真剣に考え実行していきたいと思います。

牛久第一  
中学校 古澤 奈和さん

戦争体験者が少なくなっている中、直接お話をきくことはなかなかできないので、とても貴重な体験になりました。平和記念公園や平和記念館に実際に行き、原爆の被害の恐ろしさを改めて感じました。今回の学習で平和の尊さについて考えることができたと思います。

牛久第一  
中学校 有福 颯太さん

広島に原爆が投下され、家族や友人の命、思い出ある建物や物が一瞬にして破壊され、多くの犠牲者が出ました。このような悲しい過ちを二度と起こさないためにも一人一人が平和について考えを深め、原爆による悲劇を次の世代に伝承し続けることが大切だと思いました。

下根  
中学校 美濃島 陽さん

今回の広島での学習では、貴重な話がたくさん聞け、戦争はみにくく、残酷なものだと感じました。今の世代は、戦争や原爆を知ろうとする人が少ないと被爆者の方から聞きました。無知は怖く、同じことを繰り返してしまうので、このことを他の人にも共有していきたいと感じました。

下根  
中学校 真船 志保さん

私は原爆で、家族などと生きられなかった方が、14万人以上いることを語り部の方から伺い、驚きました。一方で14万人の方々の家族は、悲しい気持ちと共に、今も生きています。このようなことが二度と起きないように、戦争で傷つく命の重みを、皆さんに伝えたいです。

下根  
中学校 嘉成 思音さん

私は今回の訪問を通して戦争はとても悲惨であると知ることができました。特に平和記念資料館に展示されていた遺品や絵を見て、胸が締め付けられるような思いになりました。これからは自分たちが学んだことを身近な人に伝え、戦争のない平和な世界にしていきたいです。

牛久第三  
中学校 玉木 瑠那さん

私が広島を訪問して感じたことは、自分たちが想像していたもの以上の残酷さです。広島の空気を通してそれを感じ一人一人の命の尊さを改めて考えることができました。この広島で学んだことを活かして、平和の大切さを多くの人に伝えていきたいと思いました。

# ～ 広島訪問を終えて～

牛久南  
中学校

春田 リリ子さん

私は広島を訪問して、原爆は本当に恐ろしいもので人々の命や生活を一瞬にしてうばってしまったという事を学びました。戦争を知らない人が増えているから、次世代に伝えていく事、そして、クラスなど身近な所から平和を築いていく事が私たちにできる事だと思いました。

牛久南  
中学校

畑中 優花さん

広島を訪れて一番記憶に残っているのは、被爆者の梶本さんの「命を大切にしてほしい」という言葉です。自殺する人が多い中、戦争では生きたくても生きられなかった人が多くいました。その人たちの思いも込めて、自分たちは命を大切にしなければならぬと思いました。

牛久南  
中学校

大石 柚衣さん

私は今回広島を訪問し、町の至る所にある被爆建物から当時落とされた核兵器の恐ろしさを直接肌で感じることができました。過去に広島に原爆が落とされ、大勢の人が亡くなってしまったことを忘れず、周りや後世の人に平和の大切さを伝えていきたいと思いました。

下根  
中学校

山形 葵羽さん

私が今回印象に残ったことは、被爆体験者の話です。原爆が落ちた瞬間体が浮き上がるほどの爆風が吹き、熱線は皮膚が溶けるほど熱かったと知り、私の想像以上に原爆は恐ろしいのだと実感しました。改めて平和な世界は、とても大切だと思いました。

ひたち野  
うしく中学校

渋谷 十梓さん

今回の被爆地である広島への訪問を通して、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて感じることができました。戦争の悲劇と核兵器の存在を忘れることなく次の世代に伝えていくことが、戦争を体験された方々の願いであり、私たちの役割であると考えています。

ひたち野  
うしく中学校

阿久津 義裕さん

今回、広島を訪問して、被爆者の方々の話を多く聞きました。戦争中の生活や被爆の体験は、今の生活からは考えられないほど苦しいものだったことが分かりました。私は、世界中の人々が互いに理解し、認め合うことが、平和な世界をつくるために必要であると思いました。

牛久南  
中学校

古川 沙奈さん

今回広島を訪問して、たった一つの原爆で世の中が、一瞬にして変わってしまったということを知り、とても恐ろしいことが起きたと思いました。だからこそ戦争はもう二度と起こしてはいけなと思いました。これからは、戦争の恐ろしさなどを沢山の人の心に伝えていきたいです。

おくの義務  
教育学校

坪井 穂乃佳さん

今回、広島に実際行って印象に残ったことは被爆体験者の方の「忘れられたことはくり返す」という言葉です。広島で77年前に起きてしまったことや、今回学んだことを友だちや周りの人に伝えて原爆や戦争が二度と起こらないようにしていきたいです。

おくの義務  
教育学校

北山 桃凧さん

今回広島を訪問して、原爆ドームや資料館などに行き、私は改めて戦争の辛さを知り、二度と起こしてはいけなと再確認しました。広島で学んだことを友だちなどに伝え、二度と戦争が起きないように、自分で出来ることを考え、平和を大切にしていきたいです。

ひたち野  
うしく中学校

橋本 萌音さん

広島を訪問し、被爆者が少なくなっている中、直接話を伺うことができました。話を通して、核兵器の怖さと、「もう二度と戦争が起こって欲しくない」という願いが伝わってきました。この貴重な体験を生かし、核兵器の怖さを少しでも多くの人に伝えていきたいです。

▼国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で行われた被爆体験者・梶本よしの淑子さんの講話を聴講。



▲ガイドさんの解説を聞きながら原爆ドーム・広島平和記念公園を見学。

おくの義務  
教育学校

畑 太陽さん

僕は広島を訪問して、印象に残っていることは、戦争の恐ろしさや悲しさです。特に8月6日の原爆がもたらした脅威は、たった一発の原爆で多くの人々が亡くなった恐ろしいものでした。現地で実感したことを、より多くの人たちに伝えていきたいです。

## 広島訪問で学んだことを発表

10月21日～26日の6日間、市民文化祭の小中学校作品展にて、広島訪問で学んだことを多くの市民の皆さまに見ていただく機会を設けることができました。期間中は多くの人が訪れ、生徒たちが制作したスライドなどに見入っていました。  
今後は、各中学校における「校内平和の集い」等でも発表していきます。

